

大豆有機生産研究に栄誉

岩手大女性優秀大学院生表彰



最優秀賞に輝いた研究成果を
発表するタントリア二さん

タントリア二さん（**連合農学 研究科**）最高賞

岩手大ダイバーシティ推進室（室長・海妻径子副学長）は、女性大学院生の優秀な研究を顕彰する「鷹嘴テル賞」の最優秀賞に、連合農学研究科博士課程3年のタントリア二さん（28）＝インドネシア出身＝を選んだ。大豆の有機生産の可能性を研究した。

タントリア二さんは生物生産科学専攻（山形大所属）。大豆生産に欠かせない化学肥料のリンが少なくても成長できる品種のメカニズムを解明した。土壌中のリン濃度を変えながら数品種の大豆を栽培し、吸収のための分解酵素が主根と側根の双方から広く分泌されていると突き止めた。

研究の出発点は、化学肥料の主要原料の一つ、リン鉱石の枯渇の懸念。日本、

インドネシアとも大半が輸入で、主要輸出国の政情で安定購入が難しくなる。

このような状況から、タントリア二さんは有機栽培の必要性を感じて研究に着手。化学肥料に過剰依存しない品種の可能性を広げる一歩となり「母国での安定した大豆生産や食糧問題解決に貢献する研究に、今後力をいれていきたい」と決意を新たにしている。

賞は岩手大初の女性助教授で、本県の女性研究者の先駆け鷹嘴テルさん（1921～2000年）の名を冠して創設された。

優秀賞受賞者は次の通り。

▽ハン・ユジョン（総合科学研究科農学専攻）▽王卓琳（連合農学研究科生物資源科学専攻）▽金優奈（総合科学研究科地域創生専攻）